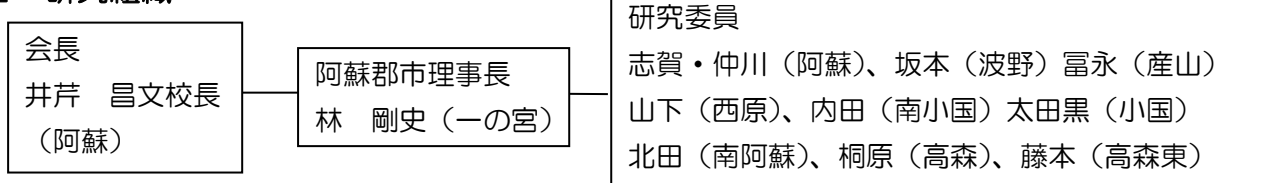


1 はじめに

これまで阿蘇郡市では、井芹昌文校長（阿蘇中学校）を中心に10校11名の保健体育科担当で研究を進めてきた。今年も昨年に引き続き、新型コロナの影響下による中止が余儀なくされる場面が多い中、それぞれの学校で対策と工夫を凝らしながら実践を行い、授業研究会も開催することができた。

研究の視点は「学び合う活動における思考の再構築化」と、「確かな実態把握における学習過程の構築」を継続して行い、検証に取り組んだ。今年度は新学習指導要領の改訂を受け、研究をさらに深め、学習構想案の作成や評価基準の見直しなどを検討しながら、研究を進めてきた。

2 研究組織



3 活動状況

- 4月 15日 (木) : 令和3年度都市研究組織・授業者の決定と年間計画の立案
<中体連評議委員・体育担当者会(阿蘇市農村改善センター)>
- 5月 6日 (木) : 昨年度実践の報告・まとめ、研究テーマ・組織・方向性検討→**中止**
<第1回阿蘇郡市教育研究会保健体育部会(一の宮中学校)>
- 6月 10日 (木) : 中体連運営確認・第2回阿蘇郡市保健体育部会
(波野中学校)→**書面報告**
- 11月 18日 (木) : 第17回熊本県学校体育研究発表大会 (益城町総合体育館)
<授業:保健「健康な生活と疾病の予防」、球技「プレルボール」>
- 12月 10日 (金) : 第3回保健体育部会 (西原中学校)
<授業:陸上「長距離走」西原中学校 山下 修平 教諭>
- 2月 17日 (木) : 阿蘇郡市中体連・中体研反省会→**オンライン**
<本年度の反省と来年度の志向(阿蘇中学校)>

4 研究テーマ

阿蘇郡市中学校体育研究会 研究主題

「自ら運動の喜びや楽しさを求め、

生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ保健・体育学習の在り方」

～学び合いの中で知識を深め、技能を高める学習をめざして～

視点Ⅰ

学び合う活動による思考の再構築化

- ①基礎的基本的な知識・技能の精選
- ②話し合う視点の明確化
- ③知識・技能の確実な定着
- ④動きを見取る力の育成

視点Ⅱ

確かな実態把握による学習過程の構築

- ①ゴールを見据えた単元計画の作成
(逆向き設計による単元の作成)
- ②レディネステストの実施
- ③スリーアップ運動

〈POINT〉保健体育の見方・考え方を意識した授業づくり

5 公開授業及び授業研究会

研究授業 陸上「長距離走」 授業者 山下 修平 教諭（西原中学校）



〈成果〉

- 能力に応じたコース選択学習を取り入れたことで、積極的に参加する生徒が増え、主体的な学習に繋げることができた。
- グループ学習を取り入れたことにより、走り方やペースがわからない生徒も、他の生徒を見ながら、自分の走り方を見つけることができた。
- まとめと振り返りを毎時間ワークシートに記入し、確実にを行うことで、体を動かしながら、知識の定着に繋げることができた。
- 準備運動に、スポーツリズム運動を取り入れたことで、心と体をほぐした状態で、リラックスをして授業に臨む姿が見られた。
- 体育的行事である校内駅伝大会を単元のゴールに位置づけ、クラスの目標を設定し、生徒の意欲の向上を目指し、授業を行うことができた。
- 陸上部など技能評価の高い生徒をペースメーカーに選出し、自分たちでペースを作りながら、主体的に活動できる場面が設定できた。

〈課題〉

- ▲「ペース走」にこだわって行ったが、1000～1500mのタイムトライアルへの記録の向上にしっかりと繋がるような授業展開ができていなかった。
- ▲「能力に応じたコース選択をしよう」問いに対して、「何を基準にして考えるか」という生徒たちの見方・考え方を働かせる視点をしっかりと与えることができていなかった。
- ▲ペース走の中で、リカバリーの時間を座って行わせていたが、歩くように形を変え、より運動量を確保しながら、怪我も防ぐ活動内容を考えておく必要があった。
- ▲見学の生徒もタイム測定を手伝うことなどで、主体的に参加できる手立てを準備しておく必要があった。

6 まとめ

令和元年の研究発表大会では新学習指導要領の改訂を意識した授業を提案した。令和2・3年は実際に授業を行っていく中で見えてきた様々な実態を念頭に授業をする必要があった。その中で、保健体育の見方、考え方を教師側が理解し、実践を行っていくことが不可欠であり、学習構想案を作成する際には3つの柱を意識した授業計画の工夫も求められた。

今年度は西原中学校の山下修平教諭による陸上（長距離走）の授業を受け、全員で研修できたことが幸いであった。今後は、この積み上げてきた研究の成果と課題を明確にし、さらに充実した研究となるようにしていきたい。